大草谷津田いきものの里 自然観察会

カエルぴょこぴょこ何種類？

木下順次（千葉市）

日　時：2013 年 6 月 2 日（日）　　天候：曇り時々晴れ
参加者：大人 14 名　子ども 13 名
担当指導員：岡田敬子・木下順次

例年より早い梅雨入りを迎え、当日も朝までは雨時々曇りの予報が出ていた。現地に来てからも雨こそ降ってはいなかったが、依然肌寒く、両生類や昆虫の観察には温度が低いかなとも。観察会が始まってみると、時間がたつにつれてどんどん気温も上がり、昼過ぎには日も差すようになってきたので、結果観察会には良い日和となった。

大草谷津田いきものの里には、従来から４種類のカエルが生息しており、少しづつ時期をずらしながらそれぞれの生活史を送っている。ニホンアカガエル、アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエルの４種類だ。今日は、彼らを探しながらその暮らしの一端を少しでも知ってもらうことが目的だ。そのために「大いにカエルやオタマジャクシを捕まえてその手に取り、じっくりと観察してほしい。でも帰るときにはその場に放して！　その住んでいる環境丸ごと理解をしてあげて。」とお願いした。

詳しい説明は後回しにして、とにかく谷津田を目指す。子どもの多い観察会では、なるべく「つかまえたり」「さわったり」に時間を取ってあげたい。とはいえ、谷津田に降りるまでのスギ林の中では、カタツムリやトホシテントウ、ザトウムシやヒラタシデムシなどが次々と子どもたちの目に留まり、そのたびに列も止まったり戻ったりを繰り返す。

田圃では畔や苗を痛めないようにそっと生き物を探すよう、また網を振り回してみんなに迷惑をかけないよう、遊び方（マナー）を教え、あとは子どもたち（と親たち）に自由にあたりを探してもらう。次第にオタマジャクシやカエルが集まり出した。当年生のニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエルのオタマジャクシ、尾が消失前のニホンアマガエル等々。

ある程度数が集まったところで、少しづつ解説も加えていった。成体の♂♀はどうやって見分ける？　指の数は？　吸盤はある？ない？　お腹が透けて内臓が見えるねぇ等。捕まえたアカガエルはふたのない容器の入れても大丈夫なのに、アオガエルはなぜふた付きの容器に入れなくてはならないか。その理由も質問の中から理解されてゆく。さらに、そこから圃場整備された田圃にはアオガエルやアマガエルだけで、アカガエルやヒキガエルがいない理由にまで思いを至らせることができれば、観察会としては成功だ。今回子どもたちはそこを理解してくれただろうか?

自分自身が観察会ではじめて見せてもらった時、新鮮な驚きだったアオガエルの“催眠術”だけは、必ず子どもたちに見せてあげたい。と、カエルにとっては余り気分（？）のよいことではないだろうとは思うものの、またやってしまった･･･。ゴメンナサイ。